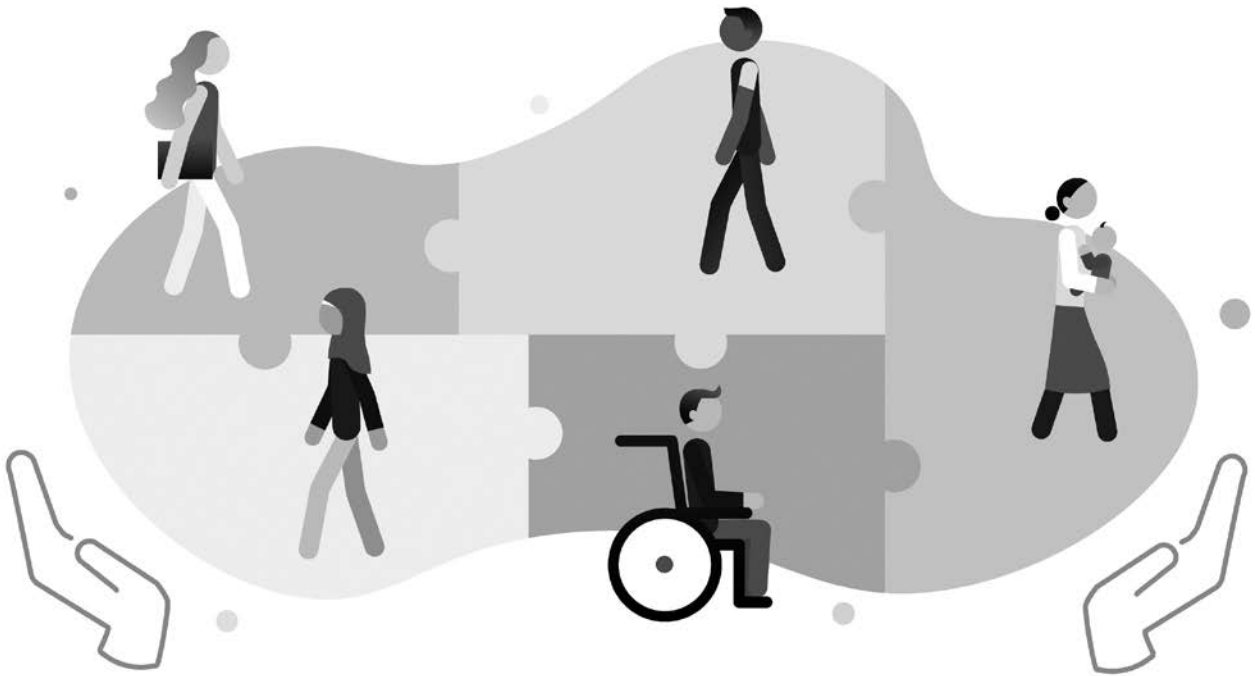


令和6年度

# 福祉作文優秀作品集



社会福祉法人 **岩沼市社会福祉協議会**

## 講評

### ✿ 小学校の部

小学校の部座長 退職校長会 丸山 千佳子

どの作品も、学校における学びをきっかけに、家族や学校生活、そして自分たちの住んでいる岩沼市を見つめ、書かれていました。

そこには、(福祉って何だろう。)という原点に戻り、真剣に考える姿がありました。これが福祉作文を書く大きな意味の一つであると考えます。

作品を読み進めていく中で印象的だったのは、インターネットや文献できちんと調べ、障がいや施設等について詳細に書いていることです。そして、それに、自分の経験、さらに、感じたこと、考えたことが明確に書かれている作文には感銘を受けました。特に、家族等の会話などから、やさしさや思いやりを深く学んでいることに、心を打たれました。

これをきっかけに、子供も高齢者も障がいのある方も誰もが安心して楽しく暮らせる社会をさらにみんなで築きあげることができるように願っています。

### ✿ 中学校の部

中学校の部座長 岩沼市教育委員会 高橋 勝

中学生の皆さんの作品は、日常生活の中で様々な視点から「福祉」を捉えたものが多く見受けられました。題には、「架け橋」「思いやり」「幸せ」「やさしい」「安心」「やりがい」「つなぐ」「手助け」「バリアフリー」など、これからの福祉を考える上で重要なキーワードが並んでいます。

家族や友人、お世話になった方々との出会いなどの体験が作品の起点となっており、そこで感じたことや、こうしなければならぬと思ったこと、自分はこうなりたいという様々な思いが、作文という形で表現されています。未来を見据えた中学生の皆さんの言葉は、これからの日本を明るく照らす希望の光であると感じました。

# 目次

## 小学校の部

### ◎市長賞

「身近にあった「福祉」

岩沼西小学校 六年 加藤 碧唯 …… 1

### ◎教育委員会教育長賞

「大好きな祖母」

岩沼小学校 六年 吉田 新 …… 2

### ◎社会福祉協議会長賞

「言ってしまった言葉」

岩沼小学校 六年 豊田 心 …… 4

### ◎老人クラブ連合会長賞

「私のおばあちゃんの仕事」

玉浦小学校 五年 船越 美汐 …… 5

## 中学校の部

### ◎市長賞

「架け橋になりたい」

岩沼北中学校 三年 山口 航生 …… 7

### ◎教育委員会教育長賞

「福祉と幸せ」

岩沼西中学校 二年 鈴木 杏奈 …… 9

### ◎社会福祉協議会長賞

「若者が高齢者に優しい社会」

岩沼西中学校 三年 鳥谷部 希羽 …… 11

### ◎老人クラブ連合会長賞

「小さな思いやりが支えに」

岩沼西中学校 一年 布田 奈々葉 …… 13

# 小学校の部

市長賞

## 身近にあった「福祉」

岩沼西小学校 六年 加藤 碧唯

(福祉ってなんだろう。)

作文用紙とにらめっこしながら、私は考えていた。私は今年、JRC委員会の委員長になった。その活動の一環として、先生から福祉作文を書いてみないか、と提案されていたのだ。作文を書く前は、委員会で一円玉募金やベルマーク回収を行っているの、スラスラ書けると思っていた。しかし、いざ書くこうとすると、自分のしてきた活動が福祉といえるのか疑問に思ってしまった、文章が進まなかった。(そもそも、私って福祉をしているといえるのかな…。)

私の中で福祉とは、「障害を持つている人のサポート」というイメージがある。お父さんは小学生の時、足が不自由な友達を連れて団地まで帰っていたというし、お母さん

は大学の時、肢体不自由の子と健常の子が一緒に過ごすキャンプのリーダーをしていた、と言っていた。そういうものが福祉だと思っていたからだ。

作文を書けなくて困っている私に、お母さんが、

「碧唯、福祉って、障害を持つている人たちへのサポートだけじゃないんだよ。例えば、碧唯だって福祉を受けているんだよ。」

と言った。

「でも私、どこも不自由でもないし、困っていることもないよ?」

と答えると、お母さんは、

「それは、碧唯がちゃんと福祉を受けているからだよ。興味があるなら調べてみたら?」

と言った。

気になった私は、福祉について調べてみることにした。

「福祉とは」と検索すると、「誰もが幸せに暮らせる社会になるよう、協力し合うこと」とでてきた。つまり、障害を持つている人たちだけでなく、誰でも福祉の対象になるということだ。次に、私が受けている福祉について調べてみた。「児童福祉」と検索すると、「子どもの健康や生活を保障する制度」のことで、例えば、児童館や保育園、不登校

やいじめの相談なども含まれることが分かった。私は両親が共働きだったので、保育園も児童館も利用していた。もしこの居場所がなかったら、両親は安心して働けなかったと思うし、私も学校帰りに一人で留守番するのは心細かったと思う。自分はずっと福祉をする側だと思っていたけれど、実は福祉を受けて生活をしていたのだ。

私だけではない。社会にはたくさん種類の福祉があり、みんなその恩恵を受けて生きている。福祉について調べることを通して、私の中の福祉に対するイメージが変わった。私たちがしている募金やベルマーク回収の活動も、ちゃんと福祉なのだ。夏休み明けから、また委員会の活動が始まる。「みんなで前に進むため」に、自分のできることを考え、行動できるよう委員長になりたい、と思った。



## 教育委員会教育長賞

### 大好きな祖母

岩沼小学校 六年 吉田 新

今年の七月二十一日に、大好きな祖母が亡くなりました。病気をわずらっていたので、先が長くないことは、うつつらと感じていました。けれど、やっぱりいなくなってしまうと言葉では表しきれないほど悲しくて、さみしいです。元々住んでいる家はちがって会う回数は多くなく、日常会話も少ないほうでした。

数ヶ月間施設にいて、通院していたので、そのときはいっしょに病院に付きそっていました。最初のころは、

「学校は楽しいのかい。」

というようなことばかり話してぎこちなかったけれど、会話を重ねていくうちに、施設でのぐちになっていきました。それまでの祖母は、真面目なところしか知らなかったのですが、ぼくはてつきりこういうことを言わない人だと思っていました。そして三月上旬にぼくの家でいっしょに住むことになりました。好きな俳優やアイドルの話をしたり、ラジオを聞いて最新の情報を常に取り入れたり、最先端を走る元

気いつぱいの祖母でした。祖母が我が家に来てからは、毎朝ラジオの音で目が覚め、食べたい料理をメモに書いて、母に渡していました。そんな祖母といっしょにいる時間もつと欲しかったぼくは、学校を休んだこともありましたが、祖母は自分の体どころか、

「学校はいいのかい。」

とぼくの心配をしてくれました。亡くなる前日に好物のウニを、

「最高。」

と言いながら、最高の笑顔でぼくの方まで食べてくれました。そして、ぼくが食べる姿をニコニコ見ていたり、大切にしていた着物をじっくり一時間ほど見たり、いつもと変わらぬ優しい祖母の眼差しでした。次の日、一気に体調が悪くなり、家族に見守られながら天国へと旅立ちました。涙が出なくなるほど泣きました。祖母が毎日書いていた日記帳には、家族への応援や感謝のメッセージが書いてありました。それを読んで、ますます涙が止まりませんでした。そばにいた人がいなくなってしまうことは、いつもの悲しさとは何かちがう悲しさでした。心にぽっかり穴が空いた感じです。

死を身近に感じて思うのは、一番は悲しみです。祖母が

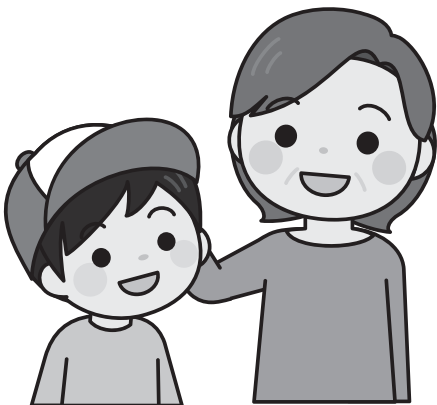
病院のときは、付き添って行き、車椅子を押しあげたり、帰りに美味しいご飯を食べたりするのがぼくの楽しみでした。

家族が亡くなることを目の当たりにして、悲しさだけではなく、いま目の前にいる人を大切にしたい、という気持ちが強くなりました。

祖母とぼくの家で過ごした約四ヶ月間は、振り返ると夢のような時間で、そしてとても濃い時間でした。天国でも幸せで元気に過ごしてほしいと思います。

大切なことを教えてくれて、ありがとう。

ばあば、大好きだよ。



言ってしまった言葉

岩沼小学校 六年 豊田 心

「言いたくない。」

その言葉を言った途端に、その場の空気が凍りついた。私はどうして空気が変わったのか、その時はまだ分かりませんでした。

家族で埼玉にある曾祖母のお墓参りに行きました。そこで私は、大叔父に出会いました。お墓参りを済ませて、みんなで昼食を食べました。その時に大叔父から、

「せつかくだから、下の名前呼びたいから、名前を覚えて。」

と言われました。大叔父は少し耳が不自由だと聞いていたので、私はいつもより大きな声で自分の名前を伝えました。しかし、大叔父には聞こえなかったようで、もう一度聞き直されました。私は、一回目よりももう少し大きな声で伝えましたが、それでも聞き取ってもらえませんでした。母に、

「もう少しゆつくりとしゃべって。」

と言われましたが、私はその時、

(なんで誰も分かってくれないの。)

と思いました。そして、これ以上大きな声で言ったら、周囲の人にも聞こえてしまうと思い、

「言いたくない。」

と言ってしまった。でも言つてすぐ、

(これはよくない発言だったかもしれない。変なことを言ってしまったかもしれない。)

と思いました。父と母の顔を見たら、怒った顔をしていて、私はなぜそんな顔をしているのか、その時は分かりませんでした。名前は母が伝えてくれました。

大叔父と別れ、車に戻ったら、父と母に、

「あの言葉は良くなかったよ。」

と怒られました。私も、

(あの言葉は、本当に良くなかったな。)

と自分でも思い、私の発言で、場の雰囲気が変わってしまったのだ、と初めて気付きました。

あの時私は、大叔父の気持ちを考えずに、自分の気持ちを優先してしまいました。耳の不自由な大叔父に、悲しい思いをさせてしまいました。次に大叔父に会ったら、必ず謝ろうと決意しました。

今、振り返ると、私は耳の不自由な大叔父に対して、もつとゆつくり、はつきりと名前を伝えたり、もつと近くにいて名前を伝えたりすれば良かったのだと思います。大叔父は、私の口から直接名前を言っただろうに、その気持ちに伝えることができませんでした。

次に大叔父に会った時、もし、大叔父が私の名前を忘れてしまっていたら、その時は、前よりも大きな声で、一回で聞き取ってもらえるように話したいです。

これからの生活の中で、大叔父のように高齢の方と出会ったり、話したりする機会は何度もあると思います。互いに気持ち良く話すことができるよう、自分ができることをきちんとしていくことが大事だと思います。知らないおじいさんやおばあさんとも、大きな声ではきはきと話したいです。



## 老人クラブ連合会長賞

### 私のおばあちゃんの仕事

玉浦小学校 五年 船越 美汐

私のおばあちゃんは、いつも笑顔でやさしいです。仕事をしていますが、大変なことなんて一つもないみたいに見えます。おばあちゃんは介護福祉士をしています。おばあちゃんはどんな仕事をしているのか、仕事をしていて楽しいことや大変なことは何か気になったので、聞いてみることにしました。

始めに、介護を必要として支援を受けている人の事を「利用者」と言うそうです。

次に、介護士さんの仕事には食事の介助、入浴介助、トイレの介助、着がえの介助、い動の介助、外出の介助、ねたきりの方の体位変かん、薬をまちがえて飲まないように管理する服薬介助があつて、毎日の生活をすごすために、それぞれの利用者さんの体の具合に合わせて、お手伝いをする仕事だという事を教えてくれました。私はたくさんの介助があることを知りおどろきました。

その次に、仕事をしていて楽しい事やうれしい事はどん



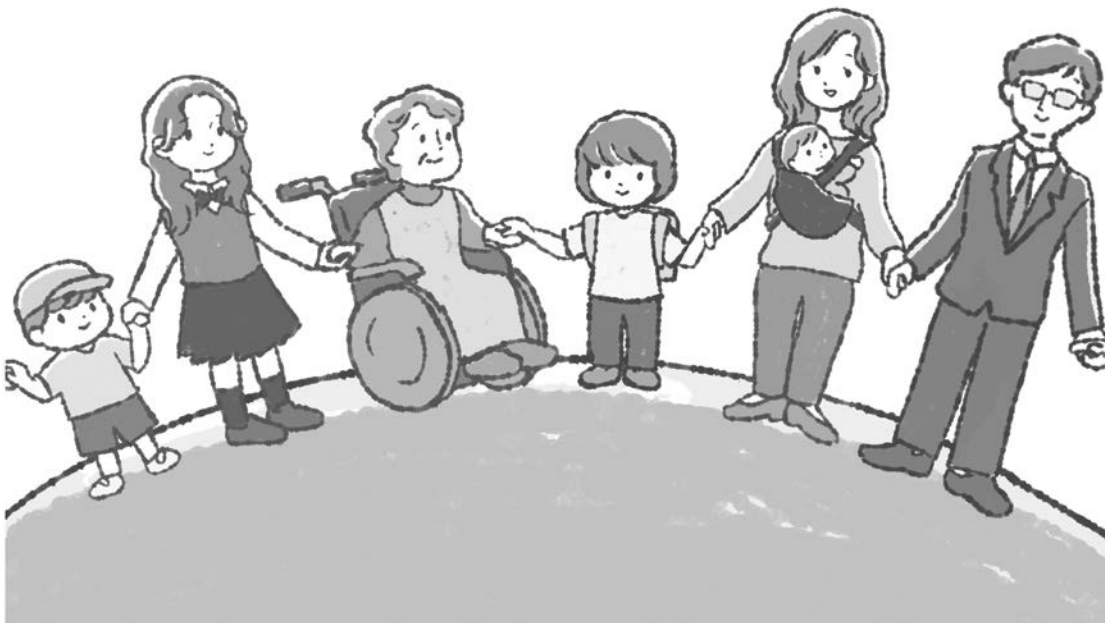
な時かを聞いてみると、利用者さんやその家族の方に感  
しやの言葉をかけてもらったり、利用者さんの笑顔を見る  
と人の役に立っているという実感があつてうれしい、と教  
えてくれました。私もやさしくされたり助けてもらったり  
した時は、相手に言葉で伝えたいと思いました。

最後に、つらい事やむずかしい事を聞いてみると、むず  
かしい事は食事の味付けで、自分が美味しいと思つて食事  
を出しても、味がこいとかうすいと言われてしまう事があ  
るので、利用者さんに合わせて味付けをするのがむずかし  
い、と話してくれました。私は、おばあちゃんの料理がお  
いしくて大好きなので、味付けがむずかしいと答えたおば  
あちゃんにおどろきました。つらい事は、自分より体の大  
きい利用者さんを支えたりするので、こしやうでが痛くな  
る事だそうです。おばあちゃんは体が細く身長も小さいの  
で、いつもシップをはつていたのは、仕事でいためたところ  
だったのだと思いました。

今回、おばあちゃんに話を聞いて、知らない事がたくさ  
んあつて、色々を知る事ができて勉強になりました。介こ  
福祉士さんは、とても大変な仕事をしているのだ、と思  
いました。いつもやさしいおばあちゃんが、とてもかつこよ  
く見えました。私も困っている人を見かけたら、やさしく



声をかけられる人になりたい、と思いました。



# 中学校の部

市長賞

## 架け橋になりたい

岩沼北中学校 三年 山口 航 生

みなさんは、障害のある人たちとどう接したらよいかかわからず、困った経験はありませんか。

私は三人兄弟の末っ子です。上の兄は、自閉スペクトラム症とADHDという障害をもっています。自閉スペクトラム症とは、社会的なコミュニケーションの困難さや、空間・人・特定の行動に対する強いこだわりがある発達障害です。ADHDというのは注意欠如多動症のことで、不注意や落ち着きのなさ、衝動性が特徴の障害です。

兄は小さい頃、言葉の遅れや睡眠障害、こだわり、パニックがあり、落ち着きがなくてとても大変だったそうです。

ぼくは一番上の兄とは十歳違うので、小さいときから特に何も思わず、当たり前のこととして接してきました。で

も、自分も成長するにつれて、次第に兄がちょっと変わっていることに気づきはじめました。例えば、独り言を言ったり、こだわりがあったり、変わった動きをしたりするところでした。友達から「お前の兄ちゃん、〇〇してたぞ。」と言われることもありました。周りから見るとやはり少し変に思われる行動があったのだ、と思います。ただ、ぼくにとつては、そのことも含めて兄であり、特に嫌だなあと思ったことはありませんでした。

兄は、得意なことと苦手なことがはっきりしています。国語がとても苦手ですが、数学は県で一番をとったことがあるほど得意です。数学の分からない問題を解いて教えてくれることもあります。そして、美術がとても得意で、河内美術展で入選したこともあります。

兄が絵を描くときには、迷いがなく、頭に浮かんだイメージをそのまま表現しています。私が絵を描く時には、いい作品を描こうと意識して描いてしまいましたが、兄は全くそんなことは気にもせず、さらさらと描いてしまいます。その絵は生前の世界だったり、物語の世界だったり兄独自の世界観が表現されていて、本当にすごいです。

たぶんみなさんにも、電車の中や、スーパーなどで「あ、この人障害があるかも。」と感じた経験があると思います。

独り言を言っていたり、きよろきよろしていたり、見た目にも違いがわかることがあると思います。こわいな、と思う人もいるかもしれません。たしかに、声を上げていたり、急な動きをしたりする人は何をするかわからないので、ちよつとこわいかもしれません。

そういつた時、あからさまに怒った表情を見せたり、大きな声で注意したり、走って逃げたりすることは、控えてほしいと思います。急に近くで大きい声がしたり、怒られたりすると、理由がわからず、混乱してパニックを起こすことがあるからです。

また、困っているように見えたり、不自然に一人で行ったりするような時には、自分で声をかけなくてもいいので、近くの大人やお店の人などに知らせてあげてほしいと思います。こわいと感じるなら、そつと離れてもいいです。話しかけてきて嫌だなと思ったら、「今は話せません。」とか「静かにしましょう。」とはつきり言ってもいいと思います。周りの空気を読めないことがあるので、こちらの気持ちを言葉にして伝えることが必要なときもあります。障害がある人と接する機会があつたら、優しく接してほしいと思います。

私は将来建築士になりたいと思っています。様々な障害

のある人が安心して過ごせ、困った行動が自然と減るような設計を手掛けたいです。発達障害は見た目にはわかりにくく、またどんな手助けを必要としているのか、周りにはわからないことが多いと思います。私は兄を家族に持った経験から、困り感を理解し、誰もが安心して幸せな人生を送るにはどうしたらよいかを伝えることができる、架け橋のような存在になりたいと思います。



## 福祉と幸せ

岩沼西中学校 二年 鈴木 杏 奈

私は、福祉とは何を目的としているものなのかを調べ、自分の経験などを思い出しながら、福祉が生む幸せについて考えてみました。

福祉には、幸せや幸福などという意味があるそうです。障害や年齢、性別など関係なく、誰もが幸せに過ごせる社会にするために助け合うことが福祉です。そのために私たちの生活の中には、福祉に関わる職業や施設が多くあります。養護老人ホームや乳児院、介護士やカウンセラー、手話通訳士、保育士などが、福祉に関わる施設や職業です。

次に、私がした経験についてお話しします。私は、小学一年生の時に、左足にがんの一つで骨に発生する骨肉腫という病気が発覚し、その後左足を切断する手術をして、身体障害者になりました。病気が発覚してから約一年間入院していた私は、入院中にたくさん福祉に関係している職業の方々に出会い、とても助けられました。病棟で入院中の子どもの生活支援や心のケアをしてくださる病棟保育士

の方や義足や義手を作ってくださいる義肢装具士の方、ケガや障害のある人の基礎動作能力の回復や維持などを目的にリハビリテーションを行ってくださいる理学療法士の方など、他にもたくさんの方々に支えられて入院生活を終え、今では楽しく笑って生活することができています。理学療法士の方や義肢装具士の方には、今でもリハビリの際などにお世話になっていて、新しいことにチャレンジするきっかけをもらっています。

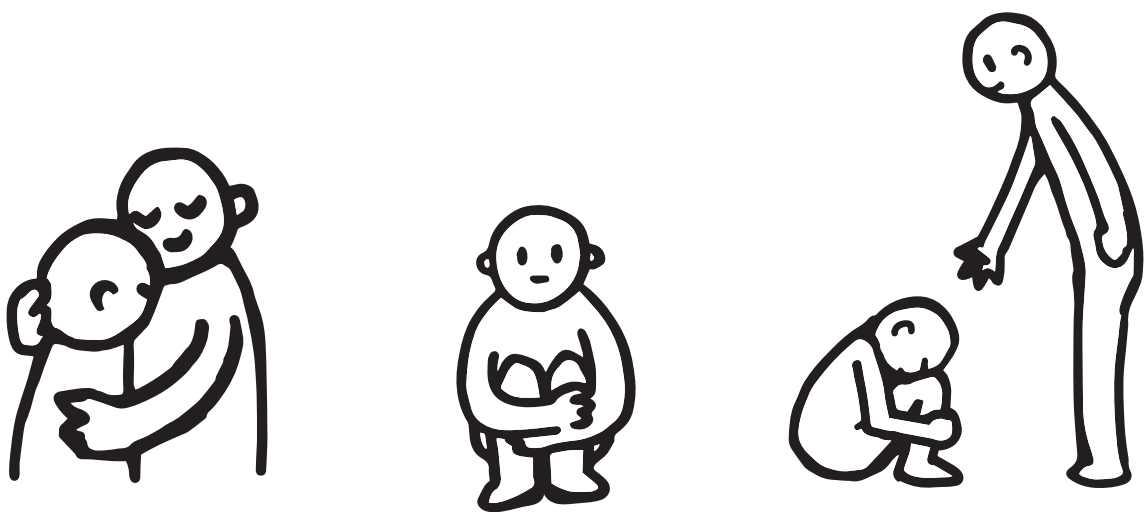
このような経験をして、今まで私は沢山の福祉に救われてきたので、将来は自分がした経験を活かせるような福祉関係の仕事に就きたいと思っています。福祉の中でも主に、障害のある方が望む生活ができるよう、支援などをする障害者福祉に関わるような仕事ができるといいな、と思います。なぜなら、自分は長い間入院していて同じように障害を持つている人の気持ちに寄り添えると思うし、何より自分がたくさんの方に救われたので、他にも同じように困っている人がいたら、今度は私が救ってあげたい、と思ったからです。辛い思いをした人の気持ちを理解できるのは、同じような経験や思いをした人だと思うので、困ったり誰かに相談したいと思った時に頼ってもらえるような、その人の居場所を作ってあげられるような人になりたいです。そ

う思ったのは、自分自身が本当に辛い時などによく本音を隠してしまうことがあったから、というのもあると思います。

自分がした経験は、みんながすることではないし、自分の障害も一つの個性として活かし、自分と同じように障害を持っていて悩んでいる人がいたら、その悩みを少しでも軽くできるようになりたいです。そして自分がきっかけをもらったように、同じような経験をした人達にも、新しいことにチャレンジすることの楽しさなどを知ってもらいたいです。

福祉はこれからも変化していき、今よりも多くの人が幸せに過ごすことのできる社会になっていくのではないかと考えています。そしてその変化していく過程には、たくさんの方の想いと努力があるのだと思います。自分も将来は、その過程の一つとして関わっていきけるといいな、と思います。そして関わっていく中で、私の思う福祉の大切さと自分が今まで受けたたくさんの方の優しさを、次に繋いでいきたいです。

これからも福祉の施設や職業が増えていって、障害や年齢関係なく、したいことができるような社会になることを願っています。



## 若者が高齢者に優しい社会

岩沼西中学校 三年 鳥谷部 希羽

私が最近頻繁にニュースで耳にする言葉、それは「アクセルとブレーキの踏み間違え」だ。この誤った操作による事故の多くは六十五歳以上の高齢者ドライバーであり、少子高齢社会の現在、こうした事故が増加しているのが現状だ。このような事故への不安が見られる中、私は高齢者の免許返納について興味を持った。

七十歳以上になると免許更新の際には、自動車学校での受講が必須である。こうした講習で、認知機能や身体機能の低下に気付く人もいるそうだ。その一方で、このような身体能力低下を認めたくない人もいるだろう。

私の東京に住む祖父母は、車での旅行が趣味だ。今でも祖父の運転で、私の住む宮城まで約五時間かけて遊びに来る。そんな祖父母は花屋を経営しており、七十八歳になった祖父は現在も出荷用のトラックを乗りこなしている。その為運転には自信があり、車に高齢者マークを付けたがらないのだ。自分は高齢者だと認めたくないのだろう。しか

し、こう言った考えを持つのは当然のことである。誰もが年を重ねても、可能な限り車を乗り続けたいと思うだろう。その為、免許返納を考える人は多いが、実際に返納する人の割合は減少傾向にあると分かっている。一方で、講習による認知・身体機能低下の指摘や、ニュースの事故の様子を見ると、自信の無い一部の高齢者は運転能力への不安を抱き、返納を余儀無くされてしまう。私はなぜ高齢化が進む中、高齢者の乗車に対する自由が奪われなくてはならないのか、本当に返納するか、しないかの二択のみなのだろうか、若者が協力できることはないのだろうか、と考えさせられた。

私は若者の行動一つで高齢者の事故は減るのではないかと感じる。それは、普段の車の乗り方だ。私の両親は高齢者マークの車両を見つけた際、道をゆずったり、スピードを下げたり、少し距離を保つなどの工夫をしているのだと思う。多くの若者がこうした行動を取るだけでも、高齢者は焦ること無く、安心して運転することができよう。

一方、実際に免許を返納した人々はどうだろうか。現在、都市部と過疎地域の公共交通手段の差が問題になっており、地方では返納後、不便を感じている人がほとんどである。買い物に行く場合でも、バスや電車の本数が少ないと

時間に余裕が無くなり、外出をしない高齢者も少なくなっていく。そんな地方の高齢者の外出が自由になるよう、地元の高齢者がタクシーのような役割を自動車で供給するのはどうだろうか。電車やバスと違い、多くの若者の協力で台数を増やすことができれば、交通手段の少なさを改善することができる。また、このような制度であれば時間を気にせず気軽に利用でき、便利になるはずだ。

このような「若者が高齢者に優しい社会」を作っていくことができれば、高齢者の事故が減り、免許返納者を減らせ、自由や生活範囲が奪われることはなくなるだろう。

私の考える今後の高齢社会は、若者が高齢者を支えながら共存していくことである。その中で今の自分にできることは二つある。一つ目は、祖父に先進技術を説明すること。実際に祖父の車には安全機能が沢山備わっているが、操作方法を理解し切れていない部分もある。その為情報端末を身近に利用する私が、最新技術を認識することで安全を提言できる。二つ目は、道路に目を向けること。一年前に私の住む地域で死亡事故が起きた。私が自転車で登校する通学路にも、危険を感じる場所がある。事故を防ぐ為、信号、道路標識設置の要望や危険な場所を警察に知らせるなど、地域に貢献していきたいと考える。

現在は、高齢者が若者の手を借りなくてはならない時代だ。今を生きる私達若者が、推測力や積極性を磨き、自ら高齢者に手を差し伸べるべきである。こうした今後の若者の行動が、日本の福祉の未来を大きく変えてゆくだろう。



## 小さな思いやりが支えに

岩沼西中学校 一年 布 田 奈々葉

皆さんは「福祉」と言えば、どんな事を思いつきますか。介護や支援などを思いつく人もいれば、協力や幸せなど人によって様々だと思います。その中で、私は今回「支える」というのをテーマに書きたいと思います。

三年前、私がまだ小学四年生の時、ひいお婆ちゃんが亡くなりました。みんなから「おつきいばあちゃん」と少し変わった名前と呼ばれていて、いつも色々な事を教えてくれる優しい人でした。ひいお婆ちゃんが亡くなる少し前、私は「支える」について考える一つの経験をしました。

亡くなる少し前、この時のひいお婆ちゃんは、以前の元気な姿とは、うって変わり家の中で静かに座っていたり、寝ながら過ごす事が多くなり、また体も思うように動かなくなつていきました。私は、小さな頃からいつも元気なひいお婆ちゃんしか見たことがなく、こんな元気がない姿は初めて見ました。それから私もなんとなく気が乗らなくなつてしまいました。そんな中ひいお婆ちゃんを一生懸命

介護しているお婆ちゃんを見て何かお手伝いをしたいなと思つたりもしましたが、当時四年生の私にとつてお婆ちゃんがやっていた事は、難しく、私には出来ませんでした。そんな私にお婆ちゃんは「最近元気がないからひいお婆ちゃんと一緒に話をしたりしてほしい」と言いました。

そして、そう言うお婆ちゃんもあまり元気がありませんでした。

「話す」これなら私にも出来るかもしれないと思い私は、それから積極的に会つて一緒に話す様にしました。家がとても近かつた事もあり、学校に行く前には「いつてきます」と声をかけ、学校が終わった後や休日には、学校であった事や楽しかった事など色々な事を一緒に話しました。ひいお婆ちゃんは、私の話を優しく「うんうん」と頷きながら聞いてくれ、また時には相談にも乗ってくれました。

一緒に話すようになって一週間経つた頃「最近ひいお婆ちゃんが少し元気になつてね。ありがとう」と嬉しそうに言うお婆ちゃんを見て、私も嬉しくなつたのを今でも覚えています。

そして今年の夏、お婆ちゃんと一緒にお墓掃除に行った時、手を合わせながらお婆ちゃんが突然「あの時ひいお婆ちゃんを支えてくれてありがとう」と言いました。あの時



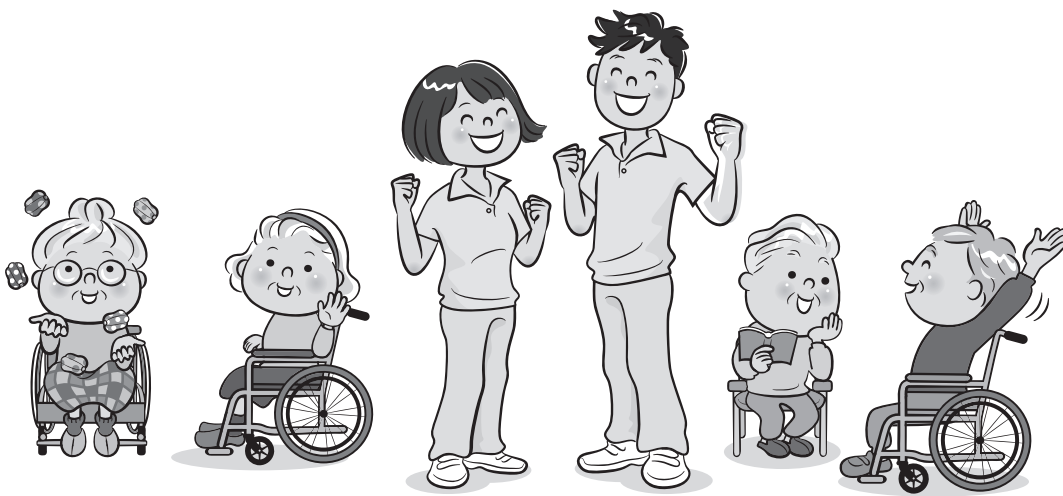
私はひいお婆ちゃんを支えていたんだ、ととても嬉しくなりました。またそれと同時に、でもきつとひいお婆ちゃんに話しや相談を聞いてくれてたあの時も、私は気づかないだけで支えられていたんだ、と思いました。今思うと、いつも色々な事を教えてくれて、私を沢山支えてくれたひいお婆ちゃんには、とても感謝しています。

そして私は、あの時の経験から「支える」とは、小さな思いやりだと思いました。自分が今出来る事、またちよつとした会話や話を聞く、あいさつをするなどの些細な事、そのちよつとした思いやりで人を支える事は出来ると思います。

そしてもう一つ気がついた事があります。それは、介護している人に寄り添い、支える事も大事だという事です。あの時のお婆ちゃんは、介護や家の家事など毎日こなしていました。お婆ちゃんもとても大変だったと思います。ひいお婆ちゃんを支える事も大切ですが、介護しているお婆ちゃんも支えていく事が大切だと思います。

私も今では、中学生です。四年生の時の私よりも出来る事が大分増えました。また今でも元気に過ごしているひいお爺ちゃん、ひいお婆ちゃんが三人います。なので私は、あの時に学んだ事、そして今自分に出来る事を精一杯やっ

ていきたいと思えます。そして自分が色々な人に支えられている事に感謝して、これから生活していきたいと思えます。



佳作

小学校の部

「今からできる未来づくり」

玉浦小学校 五年 大泉 凛

「白杖と視覚障害について」

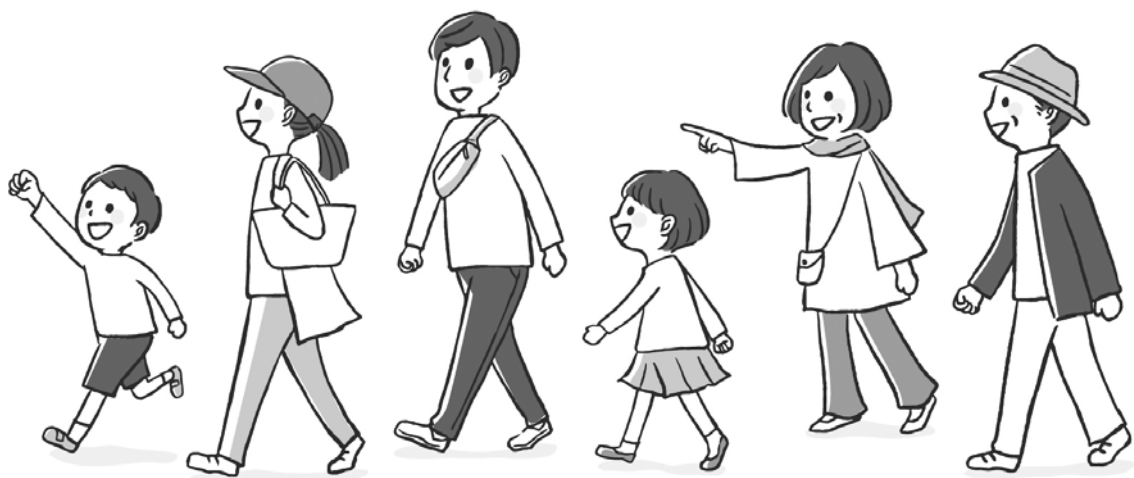
玉浦小学校 五年 山本 結友

「幸せな社会」

岩沼西小学校 六年 菅原 優那

「私の夢」

岩沼小学校 六年 鎌田 美麗



## 中学校の部



「ケアマネージャーを目指す」

岩沼中学校 一年 菅原 仁心

「私の大切な経験」

岩沼中学校 一年 石澤 美尋

「介護士のやりがい」

岩沼中学校 一年 猪股 希音

「障害のある方の気持ち」

岩沼中学校 一年 水戸 心菜

「老人福祉施設のイメージと現実」

岩沼中学校 一年 鈴木 希乃花

「福祉の生活」

玉浦中学校 二年 渡邊 寧々花



「安心して暮らせる社会へ」

岩沼西中学校 二年 大壁 侑奈

「福祉と私」

岩沼西中学校 三年 田所 祈子

「福祉の大切さと私たちの役割」

岩沼北中学校 三年 長田 宏太

「スロープと車いす」

岩沼北中学校 三年 尾形 玲奈

この作品集は、皆様からいただいた会費と赤い羽根共同募金の配分金により作成いたしました。